

県研究主題

心と体を一体としてとらえ、生徒一人ひとりが生涯にわたって運動に親しみ自らの健康・体力づくりを考えて行動する資質や能力を培う学習指導と評価の工夫・改善

提案 1

提案者 木村 有志 (川崎地区)

<研究主題>

運動の楽しさや喜びを深め運動の特性を理解し運動技能を高めるための学習指導の工夫
— コミュニケーション能力の育成を通して —

1 提案内容

本校では、友達との「かかわり」を大切にしながら各教科での教育活動が行われている。保健体育でも、積極的な活動から技能の向上を目指し、運動の楽しさや喜びにつなげるためにも友達との「かかわり」(コミュニケーション能力)を主に置き、これまでの本校の実践を活かしながら研究を進めている。仲間とのかかわり(かかわる)、運動の特性やポイントの理解(わかる)があると運動技能の向上(できる)につながるということを基本的な考え方とした。

【かかわる・わかる・できるに迫る学習の工夫】

(1) 運動の技能獲得のポイントと工夫

- ① ポイントやコツの理解(獲得)するために、友達の模範や掲示物で理解する。
- ② ポイントやコツの定着(言語化)するために、助走を言語化して理解する。
- ③ 教具を工夫し、スモールステップを踏むことで「できる」感覚を身に付ける。

(2) アドバイス活動を充実させ、励まし合って班対抗で競争する

- ① 課題解決シートを用いることでアドバイス活動を充実させる。
- ② 仲間の動きを観察し、アドバイス活動を行う。
- ③ タブレットを活用し、自分の動きと友達の動きを確認する。
- ④ 班対抗得点制記録会で仲間とのかかわりや喜びを深める。

(3) 課題練習の充実

- ① 仲間のアドバイスから、自分の課題を明確にする。
- ② 生徒の実態や学習カードの課題内容から、複数の課題練習を準備し、選択させる。

(4) 目標記録設定と自己評価

- ① 目標記録の設定 $\text{目標記録 (cm)} = \text{身長 (cm)} \times 0.5 - 50\text{M走の記録 (秒)} \times 10 + 120$
- ② 本日の目標記録を設定し、全体で共有できるように工夫する。
- ③ 「助走」－「踏切」－「大きなはさみ跳び動作」の自己評価を行う。

2 協議内容

(1) 質疑応答

- ① 生徒がタブレットを見る回数はだんだん少なくなっていったということであったが、それは生徒が課題を理解したからなのか。実情はどうか。
→ 課題が合っていない生徒には声かけをした。タブレットは、室内での活用は有効であったが、屋外では画面が見えづらい。室内で使用する事が望ましい。

② 運動が得意な生徒に変化はあったか。

→ 運動好きな陸上部の生徒は、同じ班の苦手な生徒にアドバイスをしたり、「見てあげるよ」と言ったりする変化が見られた。自分がアドバイスして友達ができるようになる喜びを感じていた。

(2) 協議の柱に即した協議

① 男女共習について

技能差が激しいので、1・2年生は男女別習で学習している。3年生からはお互いを認め合い、教え合いながら共習で学習している。共習の実施は今度の課題である。

② コミュニケーション能力の育成について

生徒から「自分の技能が低いのに何をアドバイスしてよいか分からない。」という声が上がった。「かかわりカード」を使って、技能が高い生徒に、どのようなかかわりをしたらよいか例示した。運動が苦手な生徒も、このカードを使用することで、積極的にかかわることができた。また、今年度は「かかわる」ということを先に位置付けたが、3年生では、「わかる」学習の後に「かかわる」に取り組んでもよいと考えている。

③ 自分の課題について

運動が苦手な生徒は、何が課題なのか分からないことがあった。苦手な生徒は助走からできていない。教員がタブレットで動画を撮り、何度も見せて課題に気付くことができるようにした。

3 まとめ

新学習指導要領では、思考力、判断力、表現力等の育成が示されている。伝えるということで、生徒同士の理解が深まる。ただ、生徒同士だけで進めると間違った方向に進んでしまう場合もあるため、軌道修正をする指導が必要になる。

走り高跳びへの意欲は高まっているが、目標記録に達していない生徒が半数いる。練習の場など、更なる手立てが必要になる。走り高跳びの授業で何を身に付けるのかを明確にして、生徒に学習意欲をもたせて、次年度、3年生の選択学習につなげていければよい。

「かかわる・できる・わかる」の順番は、生徒の実態や指導者の思いが重要なので、特にきまりはない。小学校の新学習指導要領解説には、知識及び技能の内容のところに、運動が苦手な児童への配慮の例が具体的に示されている。努力を要する児童・生徒には、どのようにねらいを達成させていくのか、地区等で協力して研究を進める必要がある。

男女共習が望ましい。男女だけでなく、障害の有無等にかかわらず、運動やスポーツの喜びを共有することを意識しながら教育課程を編成してほしい。

「課題練習では跳べるが、記録会では跳べない生徒」がいるのは、課題練習の場と記録会の場を変えてしまっているからではないか。エバーマットは厚過ぎると苦手な生徒にとっては返って恐怖心が湧いてしまう。あまり高くない記録に挑戦する際は、薄いマットでも安全に運動ができる。安全に着地できるよう、広いものを準備してほしい。

<研究主題>

言語活動を通して生徒同士が意欲的に学び合う保健活動

1 提案内容

実践に向けての課題意識として、保健の授業ではどうしても知識を教える講義型の授業に偏ってしまう。また、生徒同士の話し合い活動を行うが、話し合いの内容が表面的になって深まらない事がある。そこで本研究ではペアトークやグループ活動、ワールドカフェ形式の話し合いを取り入れた授業実践を行い、生徒の学習意欲と思考の変化に着目する。

(1) 実践の概要

- ① 心と体のかかわり【ペアで意見を増やす話し合い】
- ② 欲求と欲求不満【グループで課題について考えを深める活動】
- ③ ストレスへの対処と心の健康【ワールドカフェのガイダンスと実践】
- ④ ストレスへの対処と心の健康【ワールドカフェ】

(2) 研究の成果

学習カードの記述から、仲間の意見を取り入れて考えが変わっていく様子が見られた。また、アンケートの結果からワールドカフェについて「話しやすく意見を出しやすかった」「他の生徒の意見を共有できて、気付くことや自分の意見にプラスできることがあった」などの記述が見られた。

(3) 研究の課題

話し合い活動を通して新しい考え方を得たり、自分に合ったストレスへの対処方法を見付けたりしたことが、学習カードの記述から見取ることができない生徒もいた。また、話し合いのテーマについての解決策を思考することに終始してしまい、自分の生活に置き換えて考えることができない生徒がいた。意見を整理して自分自身のこととして考える時間が必要だったと考えられる。

2 協議内容**(1) 質疑応答**

- ① アンケートの結果、保健の何が好きになったか。
→ アンケートには次のような回答があった。
「普段行っていない活動であったので、新鮮な気持ちになった。」
「ルールがあったので、取り組みやすかった。」
「普段は話せないけれど、ボードを使ったことで、意見を出しやすかった。」
- ② この单元以外では、ワールドカフェを行っているか。
→ 今回初めて取り組んでみた。やりやすい单元とやりにくい单元があると感じる。

(2) 協議の柱に即した協議全体協議

- ① 2年生は知識を学習してから、グループ協議をしている。3年生はロールプレイングなどを行っている。
- ② 話し合いなどで生徒からの意見をもとにして知識の定着につなげる。
- ③ 指導者が授業にどれだけ話し合いの活動や時間を設定できるかが問題である。
- ④ 体験をもとに話し合いをして、全体でまとめる方法が効果的であった。

3 まとめ

- ・ 生徒がどうしたら興味を持てるか、できるようになるかを指導者が考え、改善できるようにする。
- ・ 「なぜ」を大切にす。指導者、生徒がお互いに考える。これが評価の一致につながる。
- ・ 言語活動は新学習指導要領でさらに重視されている。
- ・ 話し合い活動に意欲的に参加する、しないの二極化があったり、全体の前で発表する力が不足したりしている。これを考慮してペア学習、グループ学習、ワールドカフェと順を追って授業の計画をすることが重要である。
- ・ 話し合い活動のルールをしっかり決めることが重要である。全員が参加しやすくなる。
- ・ 小学校、中学校の連携は、授業をする中で必要である。
- ・ 他教科とのつながりも必要である。国語で話し合い活動について学んできていることを理解した上で授業を行うなど、他教科で学んだことを踏まえた上で授業の計画をする。
- ・ 新学習指導要領では、保健の指導内容について指導する学年が変更になるので、注意が必要である。

全体協議

<協議の柱>

「確かな学力」を育成する年間指導計画及び評価計画の工夫・改善
保健体育科における、「主体的・対話的で深い学び」の実現につながる授業の取組について

1 協議内容

平成33年度より全面実施となる新学習指導要領の解説で示された「主体的、対話的で深い学び」を実現するために、現行での取組内容や今後の指導実践について話し合いが行われた。

- (1) 新学習指導要領に示されている、「主体的・対話的で深い学び」について、参考資料をもとに各自が考えを深める。
- (2) AからGの7つのグループに分かれ、「主体的・対話的な深い学び」について、話し合い発表する。

2 まとめ

新学習指導要領になることで、指導方法が変わるわけではなく、既存の指導を大切にしながら、より子どもの実態に応じて教員が指導方法を工夫していかなければならない。その際、主体的、対話的で深い学びの視点から授業を行うことが重要になってくると考えられる。